

提言案の修正内容

修正前	修正後
<p>提言 2</p> <p>(省略)</p>	<p>提言 2</p> <p>(省略)</p>
<p>例えば、当該事務事業が当該施策の目的を達成するために<u>適切であるか</u>否かということについては、内部評価の対象とはなっていない。</p> <p>(省略)</p>	<p>例えば、当該事務事業が当該施策の目的を達成するために<u>有用性の高い事業であったか</u>否かということについては、内部評価の対象とはなっていない。</p> <p>(省略)</p>
<p>提言 4</p> <p>(省略)</p>	<p>提言 4</p> <p>(省略)</p>
<p>平成 21 年度の提言において、評価の目的と意義に関する職員の認識や、評価表の分かりやすさについて改善を求めたが、今年度の施策・事務事業評価は、残念ながらそのレベルに達していない。区の管理職は、提言の内容を十分に検討し、その意味するところについて理解を深めることが必要である。</p>	<p>平成 21 年度の提言において、評価の目的と意義に関する職員の認識や、評価表の分かりやすさについて改善を求めたが、今年度の施策・事務事業評価は、残念ながらそのレベルに達していない。</p> <p>区の管理職は、提言の内容を十分に検討し、その意味するところについて理解を深めることが必要である。<u>管理職の取組姿勢により、行政評価制度の成否が左右されるといっても過言ではない。</u></p>
<p>提言 6</p> <p>(省略)</p>	<p>提言 6</p> <p>(省略)</p>
<p>(中略)</p> <p>(例)・事務事業評価表の成果指標は、一定予算規模に満たないものは事業実施量(アウトプット)とし、予算規模の大きいものは、事業実施量(アウトプット)に加えて、区民の満足度を示す指標を加える等。</p> <p>・施策評価表の成果指標は、事業実施量(アウトプット)ではなく、長期計画掲載の成果指標と区民の満足度の 2 本立てとする等。</p> <p>(省略)</p>	<p>(中略)</p> <p>(例)・事務事業評価表の成果指標は、一定予算規模に満たないものは実績(アウトプット)とし、予算規模の大きいものは、実績(アウトプット)に加えて、区民の満足度を示す指標を加える等。</p> <p>・施策評価表の成果指標は、実績(アウトプット)ではなく、長期計画掲載の成果指標と区民の満足度の 2 本立てとする等。</p> <p>(省略)</p>

修正前	修正後
<p>提言 9 評価結果を有効に活用するためには、提言 5 で述べた体系図等の手法により、施策・事務事業の事業実施量（アウトプット）と成果（アウトカム）を整理することが重要である。これは、評価結果を予算と連動させ、説得力を持たせるためには必要な作業である。</p>	<p>提言 9 評価結果を有効に活用するためには、提言 5 で述べた体系図等の手法により、施策・事務事業の実績（アウトプット）と成果（アウトカム）を整理することが重要である。これは、評価結果を予算と連動させ、説得力を持たせるためには必要な作業である。</p>
<p>提言 11 （省略）</p>	<p>提言 11 （省略）</p>
<p>第三者評価を行う際に、10 分程度ではあるが区側から説明を受け質疑応答を行うことは、事業内容と実状を知る上で有効な方法であるが、十分な理解や納得を得るまでには至らなかった。また、一日の評価件数が、事務事業は 6 件、施策は 4 件というのも時間的に厳しいと感じた。 （省略）</p>	<p>第三者評価を行うにあたり、区側から説明を受けてから質疑応答を行うことは、事業内容と実状を知る上で有効な方法であるが、区側の説明時間が 10 分程度と短く、十分な理解や納得を得るまでには至らなかった。また、一日の評価件数が、事務事業は 6 件、施策は 3 件というのも時間的に厳しいと感じた。 （省略）</p>